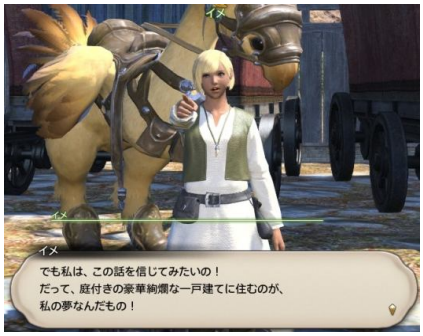
テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

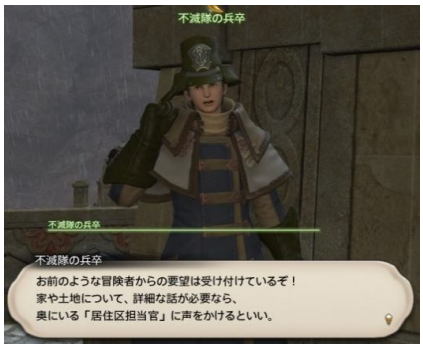
FF14　備忘ログ(PATCH2.1)　サブクエスト

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

豪奢なゴブレットビュートの夢の家

イメ ： あなたにお願いしたいことがあるんだけど、聞いてもらえるかしら？
ここから南東へ行ったところに、「ゴブレットビュート」っていう場所があるんだけど、
なんでもそこで、居住者を募集してるらしいのよ。
ウルダハ都市民じゃない冒険者でも、自分の土地と家を持てる、って触れこみだけど……
家も仕事もない難民があふれ返る横で、よくもまぁ、居住地を確保したものよね。そう考えてみると、この話っていかにも眉唾だわ。
でも私は、この話を信じてみたいの！　だって、庭付きの豪華絢爛な一戸建てに住むのが、私の夢なんだもの！
ゴブレットビュートへの入口……　ササモの八十階段の南に「モモラジ」っていう人がいるわ。
その人から、この話が本当かどうか聞いてきて！





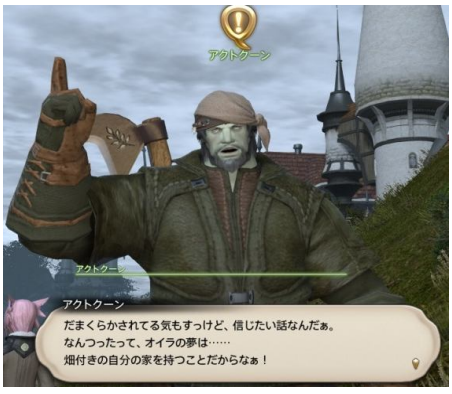
モモラジー等闘兵 ： よくきた、冒険者よ。自分は、ウルダハを守るグランドカンパニー、「不滅隊」のモモラジー等闘兵だ。
先日、ラウバーン局長が命を下され、国力増強計画の第一歩として、冒険者の招致を強化することになった。
この方針を受け、不滅隊では、深き谷間の地「ゴブレットビュート」を造成した上で、冒険者居住区として開放することにしたのだ。
つまり、冒険者に限り、家を建てることのできる土地を、提供することにしたということだな。
……そうだな、まずは「ゴブレットビュート」へ行き、そのすばらしさを確認してくるといいだろう。
もし、冒険者居住区に興味を持ったのならば、現地にいる我が隊の者に、声をかけてくれたまえ。
詳しいご案内は、その者がやってくれるだろう。

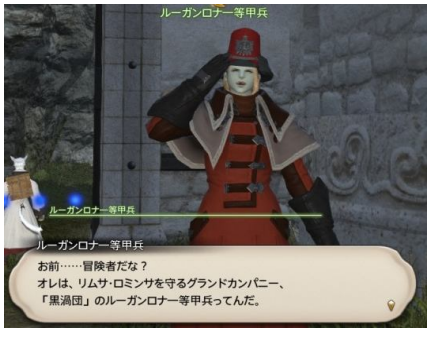
不滅隊の兵卒 ： ここは、ウルダハの冒険者居住区、「ゴブレットビュート」だ！
居住区に興味があるのかね？　……ほうほう。一戸建てを考えている人がいると。
ううむ、残念だが、この「ゴブレットビュート」は冒険者に限って、分譲している居住区なのだ。……あきらめてもらうしかないな。
お前のような冒険者からの要望は受け付けているぞ！　家や土地について、詳細な話が必要なら、
奥にいる「居住区担当官」に声をかけるといい。

イメ ： おかえりなさい！　で、あの話は本当だったの？
……なるほど、国力のためなら仕方ないわね。ラウバーン様も演説で「冒険者の力」を求めてたし、
ほかの都市でも、冒険者の力が重宝されていると聞くわ。
でも、だからって夢の豪華一戸建ては諦めないわよ！　この交易所で、しっかりがっつり稼いで、
いつか高級居住地に、大豪邸をぶっ建ててやるわ！！

潮香るミスト・ヴィレッジの夢の家

アクトクーン ： おぉ、ちょうどいいところに。あんたに頼みたいことがあるんだぁ。
ここから北東、風車群からちょうど南に行ったあたりに、「ミスト・ヴィレッジ」って場所があるんだがよぅ。
なんでもな、そこで居住者を募集してるんだと。
聞いたところじゃ、異邦人の冒険者でも自分の土地と家を持てる、って話だぁ。
コボルド族だぁ、蛮神だぁって言ってるときに、提督様は、どうやって土地を用意したんだべな……。
だまくらかされてる気もすっけど、信じたい話なんだぁ。なんつったって、オイラの夢は……　畑付きの自分の家を持つことだからなぁ！
ミスト・ヴィレッジの入り口……　グレイフリート風車群の南に兵隊さんがいるからよぅ。
そいつから、本当のところを確かめてきてくれや。





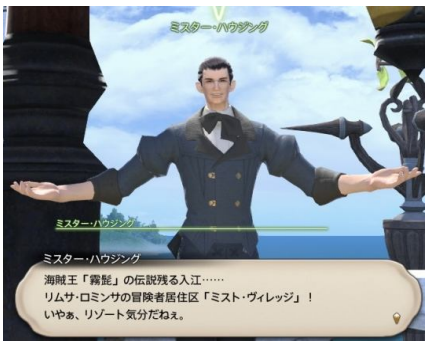
ルーガンロナー等甲兵 ： お前……冒険者だな？　オレは、リムサ・ロミンサを守るグランドカンパニー、「黒渦団」のルーガンロナー等甲兵ってんだ。
先日、メルウィブ提督の命があったのさ。国力増強計画の手始めとして、冒険者の招致を強化せよ……ってな。
この方針を受けて、黒渦団は、かつて海賊王「霧髭」が隠し港のひとつにしていたという「ミスト・ヴィレッジ」を、
冒険者居住区として開放することにしたのさ。
簡単に言えば、冒険者に限って、家を建てることのできる土地を提供することになった……　っていうこった。
……さてと、こんな所で立ち話をしていても、「ミスト・ヴィレッジ」の美しさはわからねぇだろ。
さっそく、その目で見てきたらどうだい？
そんで、冒険者居住区に興味を持ったのなら、現地にいる、うちの団の者に声かけてくれよ。詳しいご案内をさせてもらうぜ。

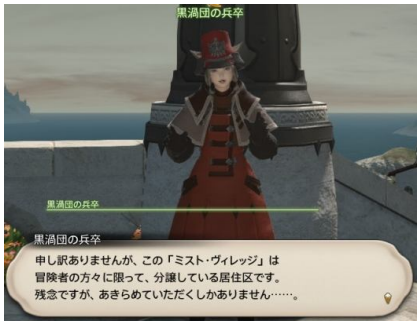
あなたはここで何をしている？

ミスター・ハウジング ： おじさんね、そうとう家造りが好きでね。各国の「冒険者居住区」を見てまわってるんだよねぇ。
おや、君も家造りに興味があるのかい？　だったら「居住区担当官」から詳しい話を聞けるよ。いやぁ、家造りは実に奥が深いねぇ。

ここはどんな場所？

ミスター・ハウジング ： 海賊王「霧髭」の伝説残る入江……　リムサ・ロミンサの冒険者居住区「ミスト・ヴィレッジ」！　いやぁ、リゾート気分だねぇ。



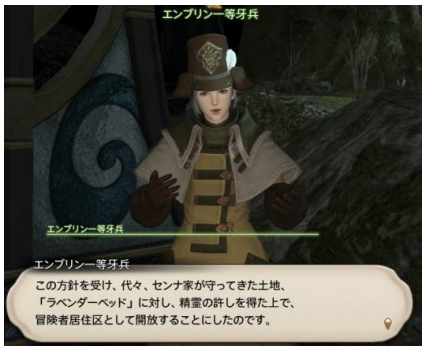


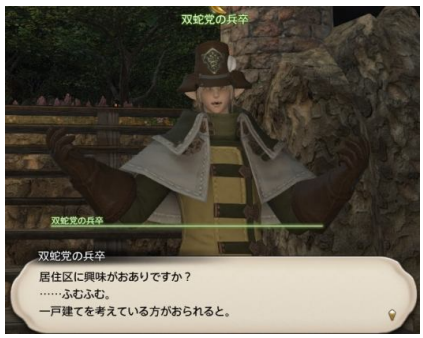
黒渦団の兵卒 ： ここは、リムサ・ロミンサの冒険者居住区、「ミスト・ヴィレッジ」です！
居住区に興味があるのですか？　……なるほど。一戸建てを考えている人がおられるのですね！
申し訳ありませんが、この「ミスト・ヴィレッジ」は冒険者の方々に限って、分譲している居住区です。
残念ですが、あきらめていただくしかありません……。
あなたのような冒険者の方は、お求めいただけますよ！　家や土地について、詳細な話が必要なら、
奥にいる「居住区担当官」に、お声をおかけください！

アクトクーン ： おぉ、戻ってきたか。黒渦団の兵隊さんには会えたかぁ？
……おんやぁ、そういう事情なら仕方ないなぁ。国を守るには冒険者の力が必要だって、こんなオイラでも聞いたことがあらぁ。
でも、自分の家は諦めきれねぇ！　ここで目一杯働いて、いつかオイラも畑付きの家を持つだよ！

花咲くラベンダーベッドの夢の家

マージェリア ： あら、ちょうど良かった。冒険者さんに、お願いしたいことがあるのよ。
ここから南東へ行ったところに、「ラベンダーベッド」という場所があるのだけれど、そこで居住者を募集している、っていう噂があるの。
噂によれば、異邦人の冒険者でも自分の土地と家を持てる、ということだけれど……
そうとなれば、精霊の許可をいただかなければならないし、そもそも、この国に余っている居住地なんてあまりないわ。
ただの噂だと思うんだけど、気にはなる話なのよ。だってだって、私の夢は……　チョコボ厩舎付きの一戸建てを持つことなんですもの！
ラベンダーベッドへの入口……「鏡池桟橋」に、「エンプリン一等牙兵」という兵隊さんがいるわ。
その方に話を伺って、噂の真偽を確認してきてちょうだい。





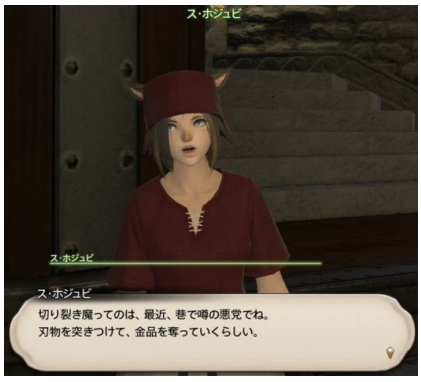
エンブリン一等牙兵 ： ようこそ、冒険者。わたくしは、グリダニアを守るグランドカンパニー、「双蛇党」のエンブリン一等牙兵です。
先日、双蛇党と精霊評議会との協議の場が設けられ、国力増強計画の嚆矢（こうし）として、
冒険者の招致を強化することで意見が一致しました。
この方針を受け、代々、センナ家が守ってきた土地、「ラベンダーベッド」に対し、精霊の許しを得た上で、
冒険者居住区として開放することにしたのです。
平たく申しますと、冒険者の方々に限って、家を建てることのできる土地を提供することにした……　ということですね。
百聞は一見にしかずと申します。まずは「ラベンダーベッド」に赴き、ご自身の目で、そのすばらしさをご確認ください。
「ラベンダーベッド」へ行くには、わたくしの後方にございます「船着場」をご利用いただければと思います。
現地に着きましたら、我が党の者にお声をおかけください。そちらの者から、ご案内させていただきます。

双蛇党の兵卒 ： ここは、グリダニアの冒険者居住区、「ラベンダーベッド」です。
居住区に興味がおありですか？　……ふむふむ。一戸建てを考えている方がおられると。
まことに残念ですが、この「ラベンダーベッド」は冒険者の方々に限って、分譲している居住区なのです。
あきらめていただくしかありませんね……。
貴方のような冒険者の方は、お求めいただけますよ。家や土地について、詳細な話をお望みでしたら、
奥にいる「居住区担当官」に、お声をおかけください。

マージェリア ： あら、おかえりなさい。それで、噂の真偽はどうだったのかしら？
……あらあら、そうだったの。残念だけど、そういう事情なら仕方ないわね。
冒険者の力は、今やこの国になくてはならないと聞くもの。
……私？　もちろん、夢の一戸建ては諦めないわよ。チョコボのお世話をしっかりして、チョコボ御殿を建ててやるんだから。うふふ。

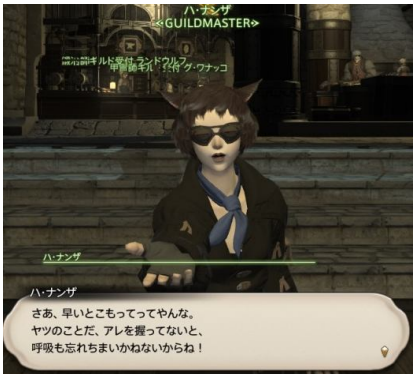
敏腕美容師の過激なる美技

ス・ホジュビ ： 聞いとくれよ、さっき悲鳴が聞こえたんだ。また、切り裂き魔が出たのかもしれない。……ちょっと見に行っちゃくれないかい？
切り裂き魔ってのは、最近、巷で噂の悪党でね。刃物を突きつけて、金品を奪っていくらしい。
悲鳴は、魚商「ハイアライン」の方から聞こえたんだ。あんた冒険者なら、ちょっと見に行ってくれないかい。
もし困ってる人がいたら、話を聞いてやってくれよ。



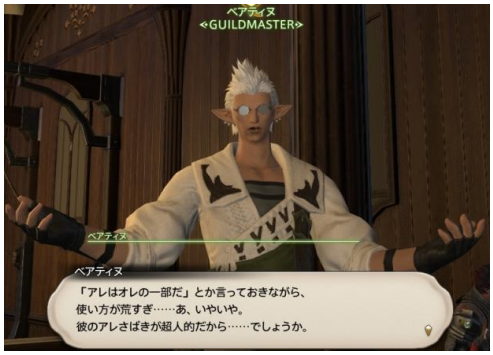
怯えたご婦人 ： お、お、お助けを！　この変態男が、突然ワタスに斬りかかってきたんだすぅ！
きっとコイツが巷で噂の切り裂き魔にちがいねえだすぅ！
ワタスは、巷で噂の「敏腕美容師」様とここで待ち合わせしてたってのによぉ。
2年も貯金して、1年も順番待ちしたんだすぅ。だのに、敏腕美容師様はまだ現れてくれねえし……　踏んだり蹴ったりとは、このことだぁ。
はっ、まさかこの切り裂き魔が、敏腕美容師様を切り刻んだんじゃあるめえな……！？
アンタ、そこの「錯乱した男」を「問い詰め」てくだせぇ！

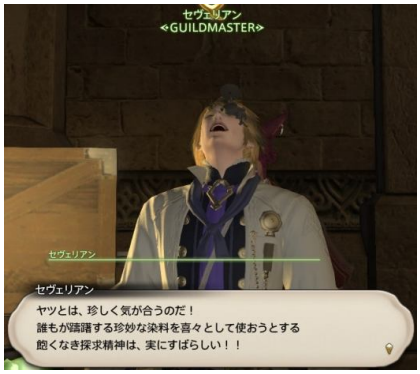
錯乱した男 ： はぁ、はぁ、ち、違う、聞いてくれ。オレもヒ、ヒ、ヒ、ヒガイ……うぁぁぁぁ！
ダ、ダメだ、もっと強くオレを「問い詰め」て、くれ……。
ち、違う、違うんだ。オ、オレもヒ、ヒ、ヒ、ヒガイ……うぁぁぁぁ！　はぁ、はぁ、頼む、き、聞いてくれ……
さっきショウバイ道具を……奪われちまった……。アレはオレの心と身体の一部……はぁ、はぁ、はぁ。
握ってねえと不安で、まともに話せな……うぁぁぁぁ！
頼む、とにかくオレの心と身体を……かき集めてくれ。今から言うヤツらに、オレの名を伝えるだけでいい……。
ナルディク＆ヴィメリー社の「ハ・ナンザ」、グリダニアの木工師ギルドにいる「ベアティヌ」、
ウルダハの錬金術師ギルドにいる「セヴェリアン」の3人だ。
はぁ、はぁ、オ、オレの名は……ジャンドゥレーヌ。オレこそが、ビ、ビ、ビヨ……うぁぁぁぁ！



ハ・ナンザ ： ジャンドゥレーヌという挙動不審な男の使いだって……？　ったく、またアレをなくして発作を起こしちまったのかい？
ヤツにとって、アレは身体の一部みたいなもんだからね。握ってないと、どうにも不安になっちまうらしいのさ。
しかも、アレならなんでもいいってわけでもない。ジャンドゥレーヌの華麗なアレさばきに耐えられるのは、
ウチで特別に鍛えたアレだけさ。
さあ、早いとこもってってやんな。ヤツのことだ、アレを握ってないと、呼吸も忘れちまいかねないからね！

ベアティヌ ： おやおや、ジャンドゥレーヌさんてば、またアレをダメにしちゃったんですか……。
はぁ……どんどん交換が頻繁になってますね。
「アレはオレの一部だ」とか言っておきながら、使い方が荒すぎ……あ、いやいや。彼のアレさばきが超人的だから……でしょうか。
え、アレが盗まれてしまったんですか？　……彼ったら意外と天然さんですね。そういうことならば、急いで届けてあげてください。





セヴェリアン ： ジャンドゥレーヌの使いだと！？　ヤツは先日、大量にアレを仕入れていったばかりだが、もう使い切ってしまったというのか。
ふふ……さすがはヤツ、実にヤツらしいではないか！　……なに、使い切ったんじゃなくて、盗まれただと？
まあ、細かいことはどうでもいい。
ヤツとは、珍しく気が合うのだ！　誰もが躊躇する珍妙な染料を喜々として使おうとする飽くなき探求精神は、実にすばらしい！！
さあ、依頼の品を受けとるのだ。わが心の友に大至急届けてやるがいい。試作品や新色も多数忍ばせておいたぞ！

錯乱した男 ： 頼む、とにかくオレの心と身体を……かき集めてくれ。
あああああああ、息ができる、力がみなぎる……　オレは今、最高に生きているっ！　さあ見てくれ、これが本当のオレだっ！！
ジャンドゥレーヌ ： オメーの人生、ザックザクに切り刻んでやんよ！　キィィイルゥゥゥ　オア　ダイッ！

怯えたご婦人 ： ぎやあああああああああああ！！！

ジャンドゥレーヌ ： どうだ……新世界に生まれ変わった気分はよ？　……バラ色だろ？

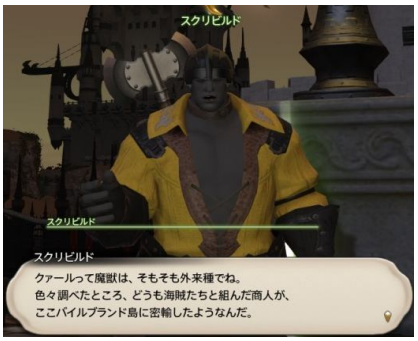
新生せしマダム ： なんだか、生まれ変わった感じがするわ！　これが……ほんとに私なの……ステキ！！
あなたが、噂の敏腕美容師様だったのね！！

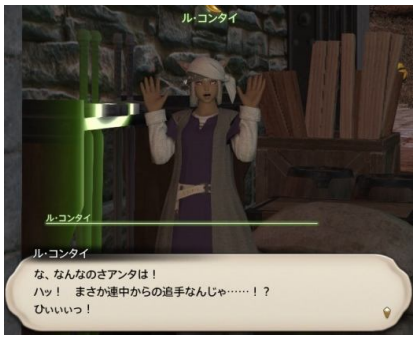
ジャンドゥレーヌ ： そうだッ！　今この瞬間、オメーは新しく生まれ変わった。だから今日は、オメーの誕生日だッ！
誕生日おめでとさん！
ヤヴァイところを、ありがとよ。オレの心と身体を届けてくれた礼をくれてやるぜッ！！
オメーの人生、ザックザクに切り刻んでやんよ！　キィィイルゥゥ　オア　ダイッ！
……っと、今回はお預けだ。オメーが新世界に行きたくなったら、オレを呼べ。そんときゃ必ず生まれ変わらせてやんよ……バラ色だろ？
本来、オレは予約に追われてヒジョーに忙しい。だが、恩人のオメーだけは特別だ！
オメーが望むなら、宿屋で呼び鈴をならしな。いつだってオメーの人生、切り刻んでやんよ！
また、必ず会えると信じてるぜ。その時、生まれ変わる未来のオメーに告ぐ！
誕生日おめでとさん！
生まれ変わるオメーへの、誕生日プレゼントだ！　その「美容師の手形」を持っていきな。

新生せしマダム ： あわわ、敏腕美容師様、お待ちくださいっ！　次の予約もお願いします～！

港の獣たち

スクリビルド ： 最近、この辺りでクァールと狼犬の群れが、激しく争ってるんだけど、遭遇しなかったかい？
お互い遺恨を抱えて、争いは激しくなる一方……　どちらか死に絶えるまで、収まりそうにない。
クァールって魔獣は、そもそも外来種でね。色々調べたところ、どうも海賊たちと組んだ商人が、
ここバイルブランド島に密輸したようなんだ。
その商人に事情聴取したいんだけど……　ぼくたちイエロージャケットは面が割れてて、接触が難しい。
冒険者さん、ちょっと話を聞いてきてもらえないかな？　このエールポートにいる「ル・コンタイ」っていう商人なんだ。





ル・コンタイ ： な、なんなのさアンタは！　ハッ！　まさか連中からの追手なんじゃ……！？　ひぃぃぃっ！

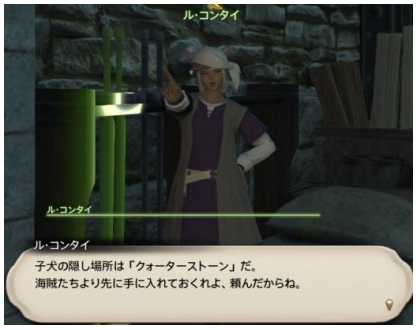
ル・コンタイ ： あわわ……勘弁してよ！　アタシはただ、繁殖用にクァールを仕入れただけ！　猟犬どもをけしかけたのは、海賊のアンタらでしょッ！
え、違う？　イエロージャケットの使い？　まったく脅かしてくれちゃって、追手かと思ったわよ。
……たしかにアタシは狼犬を繁殖させて売りさばいてた。狼犬は賢くて、訓練すれば戦力になるからね。
それに味をしめた海賊が、次はクァールに目をつけた。
海賊どもは、クァールを繁殖させようとしたんだけど……　逃げちゃってさ、慌てて猟犬をけしかけたのよ。
狼犬とクァールの殺し合いは、それがきっかけってわけ。
あいつら、繁殖の失敗をアタシのせいにして！　こっちだって利用され損、被害者みたいなもんだっての。
……イエロージャケットにそう伝えてくれない？

スクリビルド ： 冒険者さん、帰ってきたか。それで、ル・コンタイから話は聞けたのかい？
……なに！？　無責任にもほどがあるッ！　これだから商人って連中はッ！！
も、申し訳ない、少々興奮してしまったようだ。ともかく、原因はやはり海賊にあったってわけだね。
この一件はしかるべき筋に報告して、イエロージャケットの手で海賊を検挙してみせよう。
海賊は我々が対処するとして……　解決しなくてはならない問題がふたつある。
クァールを仕入れた商人ル・コンタイへの対応と、野に放たれた狼犬への対処だ。
きみにも手伝ってほしい。準備ができたら、声をかけてくれよな。

幼い狼犬を救え

スクリビルド ： さて、商人ル・コンタイについてだけど、彼女がまだ密輸用の獣を囲っている可能性がある。
悪いけど、もう一度、ル・コンタイに話を聞いて、危険な獣を手元に残していないか確認してくれるかい？

ル・コンタイ ： また、アンタかい……　何、危険な獣をまだ隠していないかだって？　……わかったよ、全部話すってば。
実は隠しておいた商品の狼犬の子供が、この近くにいてね。海賊がクァールに殺された猟犬を補充するためにさ、
そいつを狙ってるみたいなんだよ。
この騒ぎのせいでしばらく世話していないから、きっと腹を空かせてるに違いないんだ。
そんな状態じゃ、きっと海賊から逃げきれず捕まっちまう。
隠し場所を教えるからさ、アンタらでその「腹を空かせた子犬」を保護してやってくれないかい？
ただ、その子犬は警戒心が強くてね。この「きれいな骨」で気を引き、「なだめて」やらないと、
きっと大人しく捕まっちゃあくれないと思う。
子犬の隠し場所は「クォーターストーン」だ。海賊たちより先に手に入れておくれよ、頼んだからね。



腹を空かせた子犬 ： ぐるるるる……。
ワンワンッ！
クゥ～ン。

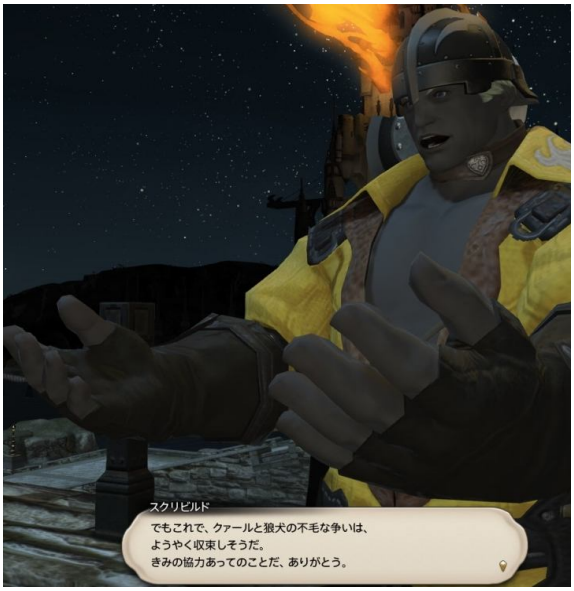
スクリビルド ： 話は聞いたよ、冒険者さん。クォーターストーンで「腹を空かせた子犬」を探すんだって？　それで、みつかりそうなのかい？
……ふむふむ。この子がル・コンタイの言っていた子犬かい？
さきほど、商人のル・コンタイが来てね、事件について、いろいろと白状していったよ。ずいぶんと反省していたみたいだ。
それから、いい知らせがあるよ。
きみがル・コンタイのところへ行っていたあいだに、ぼくたちイエロージャケットが、件の海賊を検挙したのさ！
これで、一連の騒動も落ち着くだろう。協力、感謝するよ。
しかし、この子はずいぶんときみに懐いているね。ふむ、これじゃあ……きみと引き離すのはかわいそうだな。
この子はきみに預けるのが一番よさそうだね。
どうせ、イエロージャケットの詰め所じゃあ、勝手に狼犬を飼うことはできないしね……。この子のこと、よろしく頼んだよ。

魔獣が守ったもの

スクリビルド ： さて、野に放たれた狼犬についてだけど……　問題は、やつらの狙っているクァールのほうだ。
狼犬に狙われ続けて、クァールは追い詰められている。もはや、クァールの敵意は狼犬だけでなく、
けしかけた海賊……いや、人間にも向けられているんだ。
そんなクァールを、このまま放置しておくわけにはいかない。市民が襲われでもしたら、どうなることか。
こうなった以上、早急にクァールは処分しなければならない。ぼくらイエロージャケットの使命は、市民を守ること。
時には非情な決断だって、しなくちゃダメなんだ。
どうか、きみの力を貸してくれ。「スカルバレー」付近にいまだに潜伏しているはずのクァールを見つけ出し、退治してほしい。

クァールの幼獣 ： みぃ……。
みぃ……。

スクリビルド ： どうしたんだい、冒険者さん？　「スカルバレー」のクァールは退治できたのかい？
そうか……クァールは、もう力尽きていたのか。そして、このクァールの幼獣を遺したんだね。
狼犬たちも、ほとんどがクァールに殺されている。幼獣を狙っていた狼犬が、きっと群れの最後のやつらだろう。
この一件に関わった海賊は検挙できたけど、たくさんの血は流れたし、後味は悪い事件だったね……。
でもこれで、クァールと狼犬の不毛な争いは、ようやく収束しそうだ。きみの協力あってのことだ、ありがとう。
……残る問題は、このクァールの幼獣だね。どうやらこの子、きみにすごく懐いてるみたいだ。
親を亡くしたばかりだから、すがっているのかもね。
危険はなさそうに見えても、クァールはクァールなんだよな。かといって、こんな小さな命を手にかけるのは心が痛む。
……よし、決めたよ。きみを信じて、きみにこのクァールの幼獣を預ける。この子が間違いを犯さないよう、きみが育ててくれ。



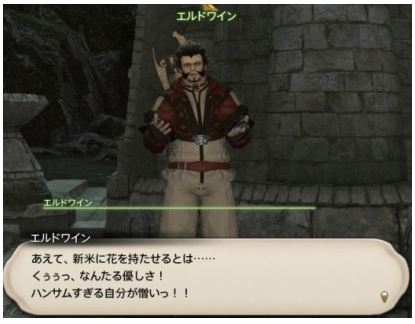
お宝浪漫！トレジャーハンター！

ハ・ルーン ： 「トレジャーハンター」って知ってる？　なんでも、世界に隠された「お宝」を探す夢追い人！　……なんだって。
この間、変な酔っ払いから、「トレジャーハンター」の醍醐味とやらを聞かされてね。
アンタも冒険者なら、お宝ってのに興味があるんじゃない？
その酔っ払い、知り合いの採掘師に用があるって言って、レインキャッチャーの船着場に向かったみたいだけど。
興味があるなら、追いかけてみたらどう？

働き者の採掘師 ： ……「トレジャーハンター」を探してるのか？　あのバカに興味を持つなんて、たいした変わり者だな。
あのバカ……エルドワインなら、古ぼけた地図を握りしめて、ずいぶん興奮していたよ。
「今度のお宝は、西紀の大発見に違いない」……だとさ。
地図には「キャンプ・ブロンズレイク」の南東が描かれてた。奴に用事があるなら勝手に追えばいい。
だが……あのバカに絡むと、ろくなことがねぇぞ。

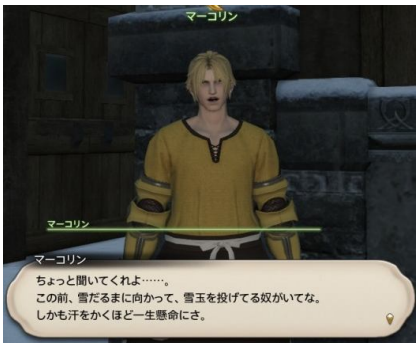
エルドワイン ： ハッハッハ、よーいところに来た！　君のその目……感じる、感じるぞ！！　「トレジャーハンター」になりたいんだろう！？
見てみろ、向こうの宝箱を！　あれは、このトレジャーハンター「エルドワイン」が、
秘密の「知識」と、素敵な「技能」で掘り起こしたのだ！
どうだい、ビンビンと感じるだろう！？　歴史と、浪漫と、お宝の香りをよぉーっ！！
早く宝箱の中身とご対面したいところだが……　宝箱を開ける権利は、新米トレジャーハンターの君にあげよう！
あえて、新米に花を持たせるとは……　くぅぅっ、なんたる優しさ！　ハンサムすぎる自分が憎いっ！！
さぁ、早く行ってこい！　中身はやらんが、歴史に名を残すチャンスだぞ！　大丈夫だ！　魔物なんて、絶対に出ないから大丈夫だ！

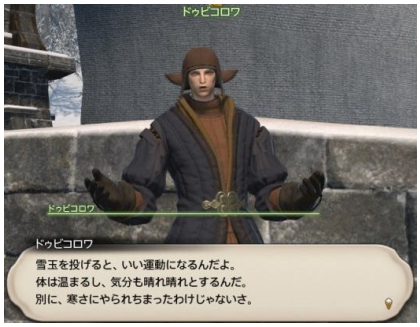
エルドワイン ： な、なんだとぉ～！？　宝箱を開けたら、魔物に襲われたぁ～！？
なんてこったい、そうとわかっていれば、私の自慢のピッケルが、魔物を鋭く仕留めたというのに！
このエルドワイン、無念の不戦勝……くぅ！
なんだ、この薬瓶は……。宝箱の近くに落ちていただと？　……そうか、わかったぞっ！！
この薬瓶、宝箱をムリに開けると割れ、魔物を誘引する臭いを発する仕掛けだったのだ！
つまり、ただの罠！　何の価値もないゴミだっ！！
……しかし、本命のお宝は小銭だったか。おっと、はした金とはいえ、もちろん君にはやらんぞ！
お宝が欲しければ、自分で「古ぼけた地図」を見つけたまえ！
エオルゼア各地には、「古ぼけた地図」が隠されている！　しかし、それらは大抵の場合、暗号で記されており、
君のような新米には、解読すらできないだろう！
だが……不覚にも、新米トレジャーハンターたる君に、罠のかかった宝箱を開けさせてしまった一件もある。
詫びとして、トレジャーハントに必要な能力を授けよう！
地図の暗号を解読する知識「ディサイファー」と、地図に記された場所で、お宝を探る技能「ディグ」である。
このふたつを使いこなし、君もお宝を手に入れたまえ！
喜び、そして、むせび泣きたまえ！　これで君も浪漫を求める夢追い人……　「トレジャーハンター」になったのだからっ！！
……うう、また小銭かぁ。帰ったら、母ちゃんに絞られるだろうなぁ。「いつまでも夢見てないで、定職に就け」って……。



雪原の投擲者

マーコリン ： ちょっと聞いてくれよ……。この前、雪だるまに向かって、雪玉を投げてる奴がいてな。しかも汗をかくほど一生懸命にさ。
こんな極寒の場所で、必至に雪玉を投げるだなんて、何か意味があってのことなのかねェ。それとも、寒さにやられちまったかなァ……。
まぁ、オレには関係ないことだ。気になるってんなら、本人に聞いてみるといいさ。
奴は「ドゥピコロワ」っていう酒保商人だ。この辺りにいるだろうから、すぐに会えるだろうよ。





ドゥピコロワ ： うん？　オレに用事か？　……なんで雪だるまに雪玉を投げていたかって？　ああ、「雪投げ」を見られていたのか。
雪玉を投げると、いい運動になるんだよ。体は温まるし、気分も晴れ晴れとするんだ。
別に、寒さにやられちまったわけじゃないさ。
なんなら、アンタにも「雪投げ」を教えてやろうか？　投げ方を覚えちまえば、すぐにできる。
そうだな……まずは「投げる」ことから覚えないとな。

雪原に佇む存在

ドゥピコロワ ： 「投げる」ことは覚えたか？　それじゃあ「雪投げ」の練習を始めるぞ。最初は、オレに向かって思いきり雪玉を投げてみろ。
いいか、オレに狙いを定めてから、足もとの雪をすくって「投げる」んだ。先に狙いを決めておかないと、上手く当たらないからな。

ドゥピコロワ ： おお、いい感じじゃねェか！　どうだ、雪玉を投げると、晴れ晴れとした気分になるだろ？　これが「雪投げ」の醍醐味っつーもんだ！
足もとに雪がある場所で「投げる」をすると「雪投げ」になる。ちなみに、雪以外は投げられないぞ。
硬いものを投げて、他人に当たっちまったら大変だからな。
次は、別の狙いを決めて、雪を「投げて」みるか。そうだなァ……狙いは、すぐそばの「雪だるま」にしよう。
雪だるまなら、アンタの熱い想いをこめた雪玉をぶつけても、痛がったりはしねェからな。
さあ、「雪だるま」に向かって、雪を「投げる」んだ！

雪だるま ： オアチャー！　今ノハ　オ前ガ　投ゲタノカ？　……マルデ　素人ダナ。
ソンナンジャ　立派ナ　雪ダルマニ　ナレナイゾ！　……モットモット　勢イヨク　投ゲルンダ！　サァ　モウ一度　「投げて」ミロ！

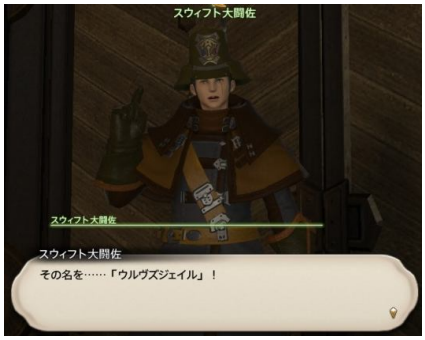
雪だるま ： ヨシ　勢イハ上々ダ！　ダガ　雪ヘノ思イガ足リナイ。モット　心ヲ込メテ　「投げて」ミロ！　……ココダ！　僕ハ　ココダ！！

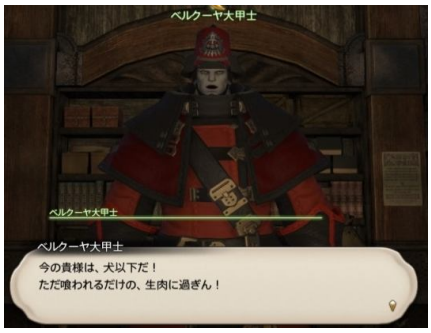
雪だるま ： ファファファ！　オ前ノ心……シカト　俺ニ　キザマレタ！　コレダ　求メテイタモノハ　コノ「雪投げ」ダ……！
ヨクヤッタ……　俺　満足……。ソロソロ　コノ　世界トモ　オ別レネ……。オ前トハ　マタイツカ　会エル気ガスル……。
ダカラ　サヨナラハ　言ワネェゼ……。

ドゥピコロワ ： おぉ、アンタか！　雪だるまに雪投げをした気分はどうだ？　心も体も、晴れ晴れとしただろう！
……なんだって？　雪玉をぶつけたら、雪だるまが喋った？
き、きっと熱くなりすぎて幻聴が聞こえたんだな……。冷水にでも浸かって、頭を冷やしてきた方がいいと思うぞ。
でもまぁ、アンタが楽しんでくれてよかったよ。これからも「雪投げ」で遊んでくれよな。

激闘のウルヴズジェイル（不滅隊）

スウィフト大闘佐 ： ◇◇◇少闘士か。昨今の活躍、まことに見事だ。同じ不滅隊員として、誇らしく思う。
ラウバーン局長の覚えもめでたい貴公の双肩には、不滅隊の未来がかかっていると言っても、過言ではない。
だがしかし……貴公の限界は、この程度ではあるまい？　まだまだ、鍛え込む余地はあるはずだ。
貴公がさらなる上を目指すなら、行くべき場所がある。エオルゼア都市軍事同盟が共同で設立した、
グランドカンパニー将兵の練兵所だ。
その名を……「ウルヴズジェイル」！
みなまで言うな、貴公の気持ちはわかっている。すでに施設を利用できるよう、連絡を入れておいた。
受付の「ベルクーヤ大甲士」に話しかければ、すぐさま「ウルヴズジェイル」に参加できるはずだ。
ラノシアの沖合にある「ウルヴズジェイル」へは、低地ラノシアの「モラビー造船廠」からの渡し船がある。
かの場所に向かうならば、利用するとよいだろう。

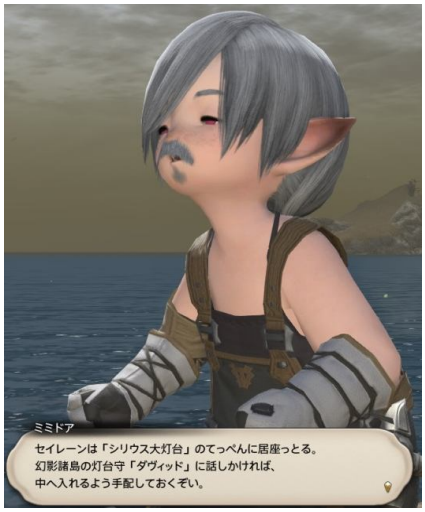




ベルクーヤ大甲士 ： 私の名はベルクーヤ・ルータルシン大甲士！　狼たちの牢獄、「ウルヴズジェイル」の訓練教官である！
いいか、よく聞け！　ここでは所属も階級も、ましてや過去の名声も等しくクソのひと掴みほどにも価値がない！！
今の貴様は、犬以下だ！　ただ喰われるだけの、生肉に過ぎん！
牙を剥け！　爪を研げ！　ここで戦い、鍛え続け、敵に喰らいつく猛犬に……　いや、獰猛なる狼となれ！
生肉のまま終わりたくなければ、話を聞きに来い！　「ウルヴズジェイル」のなんたるかを、嫌というほど説明してやる！

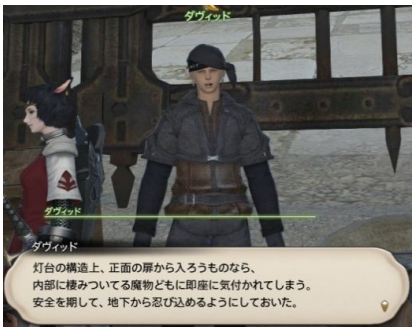
航路を惑わす歌声

ディアマンダ ： 私は鍛冶師のディアマンダ。シリウス大灯台の修繕に参加するため、ナルディク＆ヴィメリー社から派遣されてきたのですが……。
灯台が「セイレーン」という魔物に占拠されて、作業に入れないんです！　せっかくミミドアさんのもとで働けるはずだったのに……！
ミミドアさんには、昔から兄とともにお世話になってるんです。……父もミミドアさんの部下でしたが、
セイレーンに殺されたもので、私たちを気にかけてくれて……。
ミミドアさんへ日ごろの恩を返すためにも、今回の修繕作業で活躍したいんです！
そうだ、冒険者さん、灯台に巣くう憎きセイレーンを倒してください！
詳しい話は桟橋にいる「ミミドア」さんに聞いてください。セイレーンに灯台を奪われてからというもの、
苦々しい顔で、灯台の方をにらみつけているんです。



ミミドア ： おう、お前さんか。お前さんが追い払ってくれたセイレーンが、また襲来してな。シリウス大灯台を占拠したもんで、修繕に入れんのじゃ。
ヤツはわしから音を奪い、大事な部下を奪いおった。その上、今度はわしの生きる意味まで奪いおって……　まったく忌々しい魔物め！
お前さん、どうか今度こそ、セイレーンの息の根を止めてほしいぞい。
セイレーンは「シリウス大灯台」のてっぺんに居座っとる。幻影諸島の灯台守「ダヴィッド」に話しかければ、
中へ入れるよう手配しておくぞい。
見事に倒したあかつきには、真っ先にディアマンダに知らせてやってほしいぞい。セイレーンは、あの娘の父の命を奪った仇だからのう。

ダヴィッド ： 待っていたよ、ミミドアさんから話は聞いている。セイレーンは灯台の要……最上階の灯室に居座ってるんだ。
灯台の構造上、正面の扉から入ろうものなら、内部に棲みついてる魔物どもに即座に気付かれてしまう。
安全を期して、地下から忍び込めるようにしておいた。
あんただけが頼りなんだ、気をつけていくんだぞ！



不沈のサイモンド ： 我ガ愛ト忠誠……　セイレーン様二捧グ！！
不沈のサイモンド ： 来イ！　犬ドモ！　我ガ愛ヲ阻ム者ヲ、咬ミ殺セ！！
不沈のサイモンド ： ……ここは……俺は……一体……　ディアマンダ……必ず帰る…から……

セイレーン ： ♪あら、また貴方なの？　愛の輪廻に囚われし、哀れな罪人さん…
セイレーン ： ♪愛は静かな海のように　寄せては返す波のように　愛は求め　私を求め　愛の亡者と化してゆく…
セイレーン ： ♪愛の亡者は踊り続ける　歌に応え踊り続ける　愛は求め　私を求め　寵愛得んと這い回る…
セイレーン ： ……私の歌声が届かぬとは……　口惜しや、口惜しや……

航路を照らす青星

ディアマンダ ： 話は聞きました、ほんとにセイレーンを倒してくれたの！？ 父の仇を取ってくれて、ありがとうございます！！
……これを聞いたら、兄さんもきっと喜ぶわ！
兄は黒渦団の任務で、3年ほど前から航海に出ていて、今は不在なんです。
帰ってきたら、まっさきに知らせなきゃ！
灯台の修繕も、本格的に始まるでしょう。ああ……ようやくミミドアさんに恩返しができそうです。
桟橋にいる「ミミドア」さんにも、知らせてあげてください！

ミミドア ： ついに……ついにやってくれたのか！ 何年も抱え続けたヤツへの憤りから、ようやく解放されるんじゃな……ありがとよ。
で、憎きセイレーンの死に様はどんなもんだったかの……？ ……奴の一味に、黒渦団船長風のゾンビーがおったじゃと！？
ああ、なんてことじゃ……。……実は3年前……任務に出たまま戻っておらん、黒渦団の軍船があるぞい。
……黒渦団の将兵たちの間では、セイレーンに惑わされ難破したのだと噂が広がったが、
上層部は士気を考慮して隠ぺいしてしまったんじゃ……。
この船長こそ……ディアマンダの兄、サイモンドじゃよ……。くそっ、なんてことだ……セイレーンのヤツめ！！
父だけでなく、息子の命までも奪っとったか……！？
ディアマンダ……！？　い、いつから、そこにいたんじゃ……？

ディアマンダ ： 兄さんがセイレーンに……！？　そんな……兄さんは黒渦団の長期任務で、海の上にいるんじゃなかったの……！？

ミミドア ： す、すまん、隠すつもりはなかったんじゃ。黒渦団から、かん口令が敷かれておったもんで……。
いや、ちがうな……正直に言おう。わしに、残酷な真実を伝える勇気がなかったんじゃ。
かえってつらい思いをさせてしまって、すまんかった。

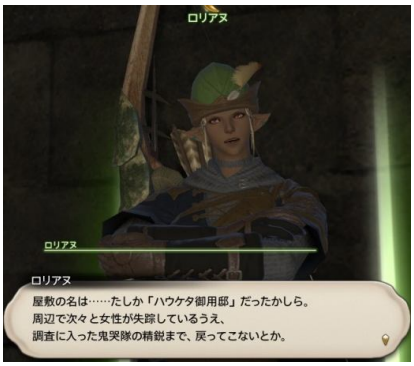
ディアマンダ ： ……わかってます、ミミドアさんの思いやりだってこと。
……私はもう、ミミドアさんと兄に頼るだけの無力な子供じゃありません！
まだ未熟だけど……鍛冶師なんです！　……だからミミドアさん、これからも、もっともっと、いろいろなことを教えてください！
私、全力でシリウス大灯台の修繕にあたりますから。これ以上、兄さんのように航路を見失う船が出ないように……。

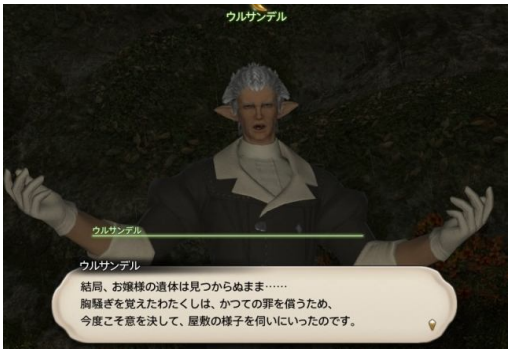
ミミドア ： わしのしごきは厳しいぞい……？

ディアマンダ ： はい、必ず乗り越えてみせます！　何かに打ち込んでいれば、悲しいことも忘れられますから……。

人喰い屋敷の噂

ロリアヌ ： ねえ、あなたは「人喰い屋敷」の噂を知っている？　黒衣森の奥にひっそり佇む、帰らずの館の話を……。
屋敷の名は……たしか「ハウケタ御用邸」だったかしら。周辺で次々と女性が失踪しているうえ、
調査に入った鬼哭隊の精鋭まで、戻ってこないとか。
どこかの冒険者が踏みこんで生還したって噂もあるけど　……って、その冒険者って、あなただったの？　それなら話は早いわね。
興味があるなら、屋敷に縁がある人に話を聞いてみたら？　挑戦権はあなたにゆずるわ。
……屋敷に喰われるなんて、私はごめんだもの。





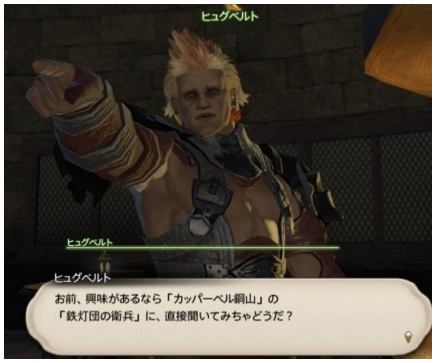
ウルサンデル ： ああ、貴方様……。わたくしの元へいらしたということは、屋敷にまつわる「噂」をお聞きになったのですね。
貴方様が屋敷の闇を暴いた後、わたくしは、アマンディヌお嬢様の悲劇をすべて鬼哭隊にお話ししました。
彼らは調査隊を結成し、真相を求めて屋敷に向かった。そして……誰ひとりとして、戻らなかったのです。
結局、お嬢様の遺体は見つからぬまま……　胸騒ぎを覚えたわたくしは、かつての罪を償うため、
今度こそ意を決して、屋敷の様子を伺いにいったのです。
……窓から覗いた屋敷の中は、様変わりしておりました。ぞっとするほど美しい女……得体の知れぬ何かが、
まさか、お嬢様に代わり生贄を求めていようとは！
闇は濃くなり、最早、なまはんか者では太刀打ちできませぬ。どうか、どうか……お嬢様を討った貴方様の手で、
今度こそ、屋敷の悲劇に幕を下ろしては頂けないでしょうか。
先ほど、鬼哭隊の増援がハウケタ御用邸へ向かいました。彼らが新たな被害者となる前に、貴方様の力をお貸しくださいませ……！

ロリアヌ ： 聞いたわよ、例の「人食い屋敷」に踏み込んだんですって？　……さすが、音に聞こえた◆◆◆ね。
また面白い噂があったら、あなたに教えるわ。

ウルサンデル ： 御用邸から帰還した鬼哭隊から、報告を聞きました。貴方様が彼らの命を救ったことと…… お嬢様が、妖異に使役されていたことを。
この顛末は、生涯わたくしが心に刻んでおくべき傷……。しかし今度こそ、ダルタンクール家の悲劇は終わったのです。
本当に……本当に、ありがとうございました。

カッパーベルで消えた者

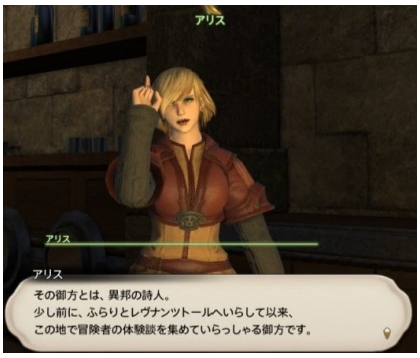
ヒュグベルト ： 西ザナラーンから来た奴から聞いたんだがな、「カッパーベル銅山」が大変なことになっているらしい。
再開発の進められていた「カッパーベル銅山」に、鎮圧されたはずのヘカトンケイレス族が、再び現れたんだとよ。
話を聞くかぎり、もっと大騒ぎになりそうなもんだが……　警備担当の「鉄灯団」が情報を止めているみたいだな。
お前、興味があるなら「カッパーベル銅山」の「鉄灯団の衛兵」に、直接聞いてみちゃどうだ？



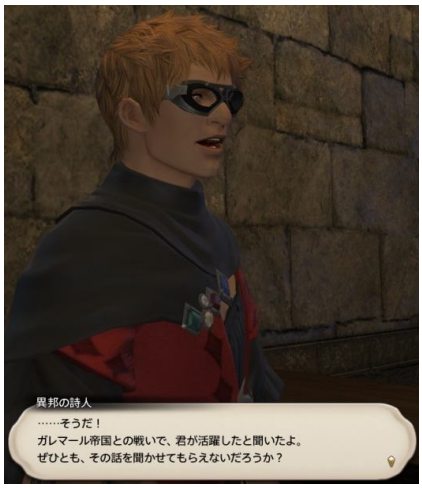
鉄灯団の衛兵 ： おおっ、君はかつてカッパーベル銅山を救ってくれた……！　もしかして噂を聞きつけて、駆けつけてくれたのか！？
うむ、実は……君の活躍により制圧されたはずの巨人、「ヘカトンケイレス族」に生き残りがいたらしく、
再びカッパーベル銅山の坑道に巨人が現れたのだ。
再開発の調査のために入山していた、採掘師たちが襲われた。巨人から逃げのびた生存者は、ほとんどいない……。
数少ない生存者の話では、巨人どもだけでなく、鉱石泥棒のスプリガンまで便乗して暴れているのだという。
このままでは、銅山の存続すら危うい状況だ。
情けない話だが、我々鉄灯団の戦力では、とても坑道内の巨人どもを鎮圧することはできない。
事ここに至っては、かつてヘカトンケイレス族を制し、カッパーベル銅山を攻略した君の力に頼るしかない……！
どうかもう一度、巨人どもから銅山を解放してくれ！

幻想の英雄叙事詩

アリス ： ようこそ、◆◆◆様。本日は貴方様に、ある御方をご紹介させていただきましょう。
その御方とは、異邦の詩人。少し前に、ふらりとレヴナンツトールへいらして以来、
この地で冒険者の体験談を集めていらっしゃる御方です。
◆◆◆様は、冒険者の中でも、稀なるご活躍をしていらっしゃるとか。その素晴らしいお話を、彼にお聞かせしてはいかがでしょう？



異邦の詩人 ： 『月明輝けども　必ずや暁迎えん　然れど　混沌の地に　神乱れ立たん』
『神狩る白き剣　神征す黒き剣　握るは　いずれか　一握りの剣なり』
……賢人ルイゾワが遺したと言われている詩だよ。僕にはこの詩が、現在のエオルゼアを預言したものに思えてならないんだ……。
君は……まさか、再会できるとは！　どうやら君と僕の間には、浅からぬ縁があるようだ。
メザヤの預言、下の段を覚えているかな？
『……七の月　散り　七の陽　昇りしとき　天の理乱れ　地に臥せし骸蠢かん』
『然れど　星海より稀人　異郷より客人来らん　　其は汝　昔日視る者　明日拓く者なり』
……冒険者◇◇◇ ◆◆◆、星海よりの帰還、心からお祝い申し上げる。
おかえり、そして、ありがとう。これからまた、君の物語を詠わせてもらえるなんて、本当に、本当にうれしいよ。
……そうだ！　ガレマール帝国との戦いで、君が活躍したと聞いたよ。ぜひとも、その話を聞かせてもらえないだろうか？
……なんてことだろう！　君が語ったことは、まるで賢人の遺文のようだ！
『神狩る白き剣　神征す黒き剣　握るは　いずれか　一握りの剣なり』
黒き剣たる「アルテマウェポン」をもって、蛮神を征そうとした、漆黒の王狼ガイウス。
対するは、神狩る白き剣……　つまり、今を生きる「光の戦士たち」を選んだ、エオルゼア三都市の領袖（りょうしゅう）たち。
この見立ては、あながち間違っていないと思うんだが。……どうだろう？
ふふ、僕も賢人に倣って、詩を詠ってみたくなってきたよ。題材はもちろん、君が演じた黒き剣との戦いさ。
さあ、聴いてくれ。ほかでもない……君の物語をね！
『東方よりいずる狼　闇より出でて牙を剥く　応えて稀人　掲げるは　勇と優の光輝なり……』



異邦の詩人 ： やあ、どうだったかな？　君から聞いたとおりに詠ってみたんだが……　ちゃんと再現できていたかい？
……微妙に違った？　まあ、いいじゃないか。いつの時代も、詩には若干の誇張が施されるものさ。英雄の君たちは格好よかっただろう？
そうして高まった君の名声は、いつかどこかにいる、誰かを勇気づける。物語とは、そうやって巡り巡るものだよ。